

幼稚園だより

令和6年5月31日
墨田区立八広幼稚園
園長 金澤 里美



—6月号—

気付く、感じる、考える、伝え合う

園長 金澤 里美

5月の後半は気温が高い日も増えてきました。保護者の皆様には、先週の親子遠足にご参加いただきありがとうございました。公園に着き、子供たちからは最初、「(遊具など)な一人にもない場所だなあ」という声も聞かれましたが、何もなくとも、親子で一緒に思い切り体を動かしたり、公園の自然に触れたり、ゲームをしたりと、楽しい時間はあっという間でしたね。この日も暑い日でしたが、鬼ごっこで子供たちと同じくらい、本気を出して走っていた大人の姿が印象的でした！子供たちは、それぞれのお気に入りの木の実や葉っぱを見付けたり、お家の方からシロツメクサの遊びを教してもらったりしたことがとてもうれしかったようです。園外だからこそできる発見、経験がたくさんの一日でした。

幼児は自然と関わる中で「あれ？」「これなんだろう？」と気付いたり、「面白い！」「不思議だな」と感じたり、「わかった」「こうしてみよう」と考えたり、「見て！」「私はこうだと思う」と伝え合ったりし、様々なことに心を動かしています。そしてこのような心の動きは何度も繰り返されています。このサイクルが充実することで、幼児の遊びや生活、心が豊かになっていきます。5月は園庭の自然への興味・関心が高まっていたぞう組の子供たちでしたが、遠足で自然とたくさん触れ合う経験をし、「気付く、感じる、考える、伝え合う」姿が更にたくさん見られるようになりました。

今の関心は、職員室前で山椒の木の新芽と飼っている蝶の幼虫で、毎日どんな変化があるか、じっくり観察しています。最初は黒くて小さかった虫がある日緑色になっていて、「どうして色が変わったんだろう」「この後、どうやって蝶に変身するんだろう」など、たくさんの疑問が生まれています。5歳児ともなるいろいろな知識が増え、何でもすぐに「知ってる」と言ってしまうことがあります。それは、本やテレビなどから得た情報で、実際に目で見たり、触れて確かめたりしたものではないことも多いかもしれません。私たちは、今の時期だからこそ、「直接体験から様々なことを感じてほしい」、「発見や驚きなど自分の感じたことを自分の言葉で表現してほしい」という願いをもち、出会いの機会をつくっています。幼虫に気付いた保護者の方も立ち止まって子供たちの話を聞いてくださっている姿、「へえ、そうなの、知らなかった」と驚いたり、共感したりしてくださっている姿がとてもうれしいです。これからも、子供たちが毎日、気付いたり、感じたり、考えたりしていることを、たくさん聞いてあげてください。

【6月のねらい】

ぞう組

- ・自分なりにめあてをもって繰り返し取り組む楽しさを味わう。
- ・栽培物や飼育物に興味・関心をもち、発見したことを伝え合う。